

「^{きえぶつとう}帰依仏塔」

埼玉県指定史跡（昭和7年3月31日指定）

^{こうごんじ}光厳寺（^{おおかわど}大字大川戸）境内にある^{しょうあん}正安^{いたび}銘の大型板碑です。「^{きえぶつ}帰依佛」の三字が刻まれた稀少な作例です。年号の下部が土台に埋没しているため、正確な造立年次は不明ですが『^{しんぺんむさしふどきこう}新編武蔵風土記稿』では正安2年（1300）としています。^{げんこうじ}源光寺（^{かみあかいわ}大字上赤岩）にも正安3年銘の同型の「源光寺の帰依仏塔」（町指定有形文化財）が存在します。寺伝では「帰依佛」の書体は、鎌倉時代の渡来僧である^{いっさんいちねい}一山一寧の書を写したと言われています。

^{げんろく}元禄8年（1695）の光厳寺境内絵図により、当時は寺のすぐ西を流れる^{ふるとねがわ}古利根川沿いの「往還」に面して立てられていたことが分かります。



現在の帰依仏塔